

## 第39回自然保護委員総会記録

- 会期** 平成27年9月12日から9月13日  
**会場** 国立磐梯青少年交流の家  
**主管** 福島県山岳連盟  
**概要** 9月12日から13日の2日間、「国立磐梯青少年交流の家」にて、26加盟団体から110名の参加を得て、福島県山岳連盟主管のもと第39回総会を開催した。  
1泊2日の日程で開催したこの総会を「山岳自然の集い 福島県大会」サブタイトルに、テーマを「いわはしやま（会津磐梯山）の自然保護と火山防災に学ぶ」とし、通常議事に加え、磐梯山にまつわる基調講演と実際の現地の様子を見聞し、火山と自然を考える集いとした。

### 開会式

1. 司会挨拶 13:25 自然保護委員会事務局長 小高玲子
2. 開会宣言 13:30 自然保護委員会副委員長 西山常芳
3. 主催挨拶 13:35 日本山岳協会副会長 尾形好雄

今年の5月の定期総会で八木原会長をトップに新体制がスタートしました。公益法人化から3年目を経りましたが、定款の目的を行うため登山と山岳スポーツの両輪を平行で運営していくと公言致している。これを円滑に致すため各種上部団体に加盟をいたして進めているところです。そして競技団体としてミッションを背負っております。スポーツライミングの競技種目としての脚光を浴びるようになり、競技団体としての色合いが益々強くなってきている。一方、登山の分野では中高年の時代は過ぎ、今や若返りが見られるところですが、その多くは未組織登山者となっており、以前と登山の様相が違ってきている。受け皿としての日山協の責務が不可欠とも考えます。「山の日」の祝日が制定されたことをチャンスと捉え、総会に出席の各位においては、山の自然の楽しさに加えその大切さを次の世代に伝えていくよう精励されることを期待する。また、地球規模の環境が劣化の一途を辿っていることに対し、その歯止めを配慮する環境保護について検討を進められるよう期待します。この大会が実り多い総会になりますよう祈念し、福島岳連の皆さまに感謝申しあげる。

4. 主催挨拶 自然保護委員長 松隈豊

本総会の参加都道府県は26、113名の参加をいただいた。連日の災害に及ぶ悪天候で本開催危ぶまれましたが、それを押しのご参加を頂き誠にありがとうございます。二日間の総会を実りあるものされるようご期待申し上げます。討議の資料を2冊の冊子にまとめて用意いたしましたご活用をお願い申し上げます。

5. 主催挨拶 福島県山岳連盟会長 尾形一幸

この福島にお越しいただき、心から歓迎を致します。福島といいますと4年10ヶ月前の大震災で様々な出来事が起こりました。また昨日までの長雨により災害が当地を襲いました。この災害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げます。福島は現在復旧復興中ではありますが、まだまだのところがございます。これを如実に表すのが福島県を訪れる登山者数で、以前の45%ほどにとどまっています。これだけの素晴らしい山がありますもの足を向けていただけないのは残念です。復興がなって、平穏の福島に戻りますようお願いしています。明日は磐梯山へ登山頂くのですが、この山に逸話があります。標高がお分かりでしょうか。以前は1819メートルございました。6年前に猪苗代山岳会の方々が亡失した三角点の再建を行いました。天皇皇后両陛下が福島へお越しの折り磐梯山の標高を、ヌル湯の主人の二階堂さんお尋ねになり、磐梯山が男か女かとの話から始まりまして磐梯山の歌詞「奈良の大仏婿にとり」との一節から女性であるとなって、「満で18、数えで19」ということで覚えるよろしいとなりました。更に陛下から噴火前の標高をお尋ねになったということです。答えは講演であろうかと思えます。長い話になりましたが、2日間の総会が無事終了しますよう祈念しております。

### 基調講演（演題 「1888年の磐梯山の噴火とジオパーク」）14:10～15:10

磐梯山噴火記念館副館長 佐藤 公（ひとし）氏を招き、磐梯山と火山災害について講演を聴講した。概要は次の通り。

福島の尾形さんに話にもありましたが磐梯山の現在に標高は1816メートルとなっています。噴火前も今も最高峰の大磐梯の標高は変わりませんがその後の再測量で値が変わっただけです。大磐梯と櫛ヶ峰の間に1750メートルあったといわれる小磐梯が無くなっただけです。もっと昔は、現在の山頂が5合目といわれていますから、富士山と同じくらいの高さであったのだという地元の願望のような想像もあります。

火山とは第四紀（約260万年前から現在までの期間）に噴火したことのある山で日本に250座ほど

あります。そのうち、概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山を活火山といい、国内には活火山の数は現在110座、常時観測の火山は47座ある。火山のとても多くあるのにそれらに対する認識は山登りをされる方にはとても低いように見受けられます。火山の成り立ちを卵にたとえますと、殻の部分を地殻(50キロメートル前後の厚さ)に、白身の部分をマントルといい火山のもととなるマグマが作られます。そして黄身の部分が核といい、もっとも熱く半径が3400キロメートルほどあります。それで、日本の場合火山はプレートが衝突する付近で、島弧型火山(最近ではプレート沈み込み型火山)と呼ばれます。地球上で十数枚あるプレートのうち4枚が日本列島周辺にあり、プレートと火山・地震が密接な関係があり、このことが分かったのは50年ほど前の事です。日本は地震大国と呼ばれるように世界では10年間に2000回ほど起きていますが、そのうちの2割は日本で起きています。国土面積(世界の陸地面積の0.25%)の割にはとても大きな値となります。また火山も世界で1500ほどあるうちの7%が日本です。日本は多くの自然災害を長年経験してきた国民であるわけです。日本で最も火山が多いのは、伊豆諸島・小笠原諸島へ連なる火山帯を擁する東京都であることに注目したい。

昨年の噴火災害を招いた御嶽山は、1979年と2014年噴火しているが両方とも同じ規模の水蒸気噴火であった。水蒸気噴火の場合には前兆現象が起きずわかり難く、突然の爆発を招く。噴火後5分と立たないうちに噴煙は6キロメートルほど上り、風にたなびき火山礫(噴石)が、野球ボールサイズの噴石が自足200~300キロメートルで落下してきた。丁度その下に登山者が沢山いて、噴石にあたって殆どが亡くなってしまいました。噴火から5分後の短時間で避けようがない、恐ろしい噴火でした。そこに逃げ遅れの心理について、正常性バイアスということを知られたかと思えます。すなわち異常事態が発生してもそれを正常範囲としてとらえ心を平静に保とうとする心理が働いたと考えられている。これは大切な機能ですが、根拠のない自信を招くことにもなりかねませんので、特に大きな自然災害の時にこの正常性バイアスが働いてしまうと、逃げ遅れてしまいます。遺留品のカメラを見ますと、ほとんどの方が噴火の様子を撮影していました。まさか5分後に頭上に噴石が落下してくるとの予想すらしていなかった証拠です。4年前の3.11のときも7割ほどの人たちが予め避難をしなかったそうです。正常性バイアスをリセットして、自然災害の時はまず逃げるのが肝心です。生還された方々の手記にもまず逃げることの大切さがうかがえます。今山に登られる方の多くがその山が火山であることを認識せずに登っています。一方、今年の5月29日に口ノ永良部島の噴火のとき、小さな島ですが昨年8月にも噴火しており、そのあとすぐに御嶽が噴火したわけですが、住民130人のみなさんは神経を尖らせておりました。より安全な場所へ避難所を移設し、何度となく避難訓練をしていたため、人的な犠牲は起きませんでした。これらを経て今年に活火山法(活動火山特別措置法)が改定されました。登山の関係のガイドブックは多々ありますが、火山であることについての説明記載がない。これが問題であることの認識が必要ではないでしょうか。

噴火警戒レベルは気象庁が2007年に導入したシステムですが、火山の活動をわかり易く伝えるため、5段階に分かれています。レベル1が平常、レベル2火口周辺規制、レベル3入山規制、レベル4避難準備、レベル5の避難の5段階です。しかしながら、御嶽山がレベル1で噴火したように、正解率2割程度と不都合な点があります。レベル1も「留意」という表現に変わった。

福島県の活火山は吾妻山(東・西・中の3座、噴火レベル2)、安達太良山(噴火レベル1)、磐梯山(噴火レベル1)の3座ある。磐梯山は1888年7月に噴火を起こし、大音響とともに爆発、短時間に爆発が15~20回反復して小磐梯山の大半を崩壊させた。同時に琵琶沢沿いに疾風(火砕サージ)と土石流が発生し、南東山麓の村を破壊した。この時発生した大規模な岩屑なだれ(45~77km/時)が山麓の集落を埋没させ、多くの死者が出る大災害となった。また、長瀬川が埋没させ桧原湖、小野川湖、秋元湖、五色沼等が形成された。噴火後の磐梯山の調査は当時最高の専門家が参加している。この時代はまだ火山学が確立されていなかったが、この時発生した大規模な山体崩壊と岩なだれは米国セントヘレンズ火山の1980年噴火での活動でも注目された。

磐梯山は2000年に火山活動が活発になり入山規制等が行われたが当初は対応が円滑には進まない面もあった。結果的には噴火等は発生せずまた、火山防災マップ等が作成され、火山防災の面では前進がみられた。

磐梯山とその山麓一帯は日本ジオパークに認定登録されている。ジオパークとは地球活動の遺産を主な見どころとする自然の中の公園のことであり、大地の生い立ちと豊かな自然、そこに暮らす人々と大地の関わりがよくわかるジオパークである。

## 総会議事

司会(議長兼任)		日山協自然保護委員会事務局長 小高令子
議長確認	15:15	同上
事業報告	15:20	日山協自然保護委員会委員長 松隈 豊

① 平成26-27年度事業報告

会議・研修会 (自然保護常任委員会・山岳団体自然環境連絡会・スポーツと環境担当者会議)  
(自然保護指導員研修会・関東地区山岳連盟自然保護交流会)

発行物 ニューズレター4号(秋～夏)

その他 JMA山岳自然保護ブログページの紹介 投稿歓迎

② 平成27年度事業計画

イ) 研修会および研修会

ロ) 自然保護の啓発

③ 継続中の活動

イ) 自然保護指導員制度 高体連加盟で若い力を取り込む

ロ) ツールの利用

ハ) 山の野生鳥獣目撃レポート

ニ) 山岳団体自然環境連絡会 意見交換

ホ) 山に向かう心の意識調査アンケートまとめ

ヘ) ニューズレター 日山協ウェブページに掲載

27年度指導員登録状況「について

各都道府県活動発表 15:30

北海道 佐藤健氏

北海道の実情として自然保護指導員を196名登録いたしておりますが、高簾化などから活動は活発ということではありません。地域が広いことに加え人・資金の欠乏から、登山道歳暮など行き届かないところが多々あります。北海道100名山が9座ありますがそのような状態です。広い地域に跨っているうえ、人手・資金・物資が不足していて、9つある百名山の登山道の状況もよくありません。また、未だに希少植物の盗掘が絶えない。



岩手県 長畑重弘氏



登山普及部としては、岩手山八合目避難小屋の適正管理と環境整備を行っております。特に岩手山八合目付近登山道の土砂の流出が激しく、井パン委多く利用される新道柳沢コース登山道整備も行いました。また、ジュニア育成事業として、登山を通じて自然とのかかわりの素晴らしさの伝達し、子供達の自立真の育成、共同生活の在り方の体験をさせている。

茨城県 田上正敏氏

自然保護委員は32名在籍のうち10名程が県北部に偏った活動となっており、全体的に展開することが課題となっております。尚自然保護指導員茨城県は20名の登録となっております。最高峰が1022mの八溝山で県内の山はほとんどが里山である。自然保護委員会の活動は清掃登山・水質検査が主なテーマとなっている。茨城県北ジオパークの関係者と連携した自然蛍雪などを盛り込んだ清掃活動が2年目を迎えます。



栃木県 奈良忠男氏



「栃木県百名山ガイドブック」参照し「著者と登る栃木百名山山」への参加協力(5月～11月計7回実施)、日光清掃登山実施(H27年7月)200名参加、ブレ山の日記念PRキャンペーン(27年8月)30名参加、那須でのクリーンキャンペーン&清掃登山(H27年9月)19団体参加 登山道の整備も含んで行った。

群馬県 斎藤長作氏

多くの自然保護活動団体がある中、岳人ならではの「自然観察会」を重点に実施を目指している。また、登山行動を伴わない交流会などの行事は行わない。追加資料をお配りしましたが、群馬県では希少野生動植物の保護に関する条例がようやくできた。山岳連盟からもこの条例審議員に加わっております。



埼玉県 増田修副委員長



埼玉山岳連盟創立60周年記念登山として、県内山岳60座のクリーン登山の実施。関東地区の自然保護委員会の方々との交流の場でもあった旧三峰分校(岳人の家)が閉所したが、この場所で各委員の方と楽しいひと時を持てたことはよい思い出となっている。

## 千葉県 濱田伸委員長

自然保護指導委員 37 名折りますが、実際の活動はほとんど一人で行っているのが、現状。千葉の山に目を向けてほしいとの思いから、南房総の鋸山の植物観察会・調査を行いレッドデータ植物の報告書作成。嫌悪生物多様性センターへヒカゲツツジを始め 8 件の希少植物を報告しています。



## 東京都 西山常芳委員長



現在指導員の数は 230 名程ですが、その中から専門委員に差なんかしているものは 21 名がおります。年齢層は 20 から 70 歳代と幅広ですが 7 割は 60 歳代です。これらの陣容で年間 20 件ほどの事業を行っている。今後若い人の増加が課題。主として、秩父・多摩・甲斐国立公園を中心に①環境保全②調査③啓もう活動④研修・講習会の 4 つを柱に活動を行っている。

## 神奈川県 松隈豊委員長

公的助成を獲得して 4 つの事業を行っている。それぞれの事業は各山岳会・クラブ・協会に協力して戴き実施。各メンバとはメールを通じて連絡をとり会議を進めていく体制をとっている。活動としては 1) クリーン活動 2) 自然再生活動 3) 教育・研さん活動 4) 対外協力活動を行っている。



## 山梨県 磯野澄也委員長



委員数が 30 名となり自然保護に歌いする機運が高くなっている。希少高山植物調査の山岳レンジャー制度が山梨県で行われており 141 名登録されている。活動内容はレンジャー報告として報告しておりますが、希少種の位置図を作って各地域の生育をまとめています。毎年話題になるのがシカ問題でこれに伴う植生の変化が報告されている。山岳レンジャーの研修会のテキスト冊子では花の見方や報告の仕方などを解説しています。3 つの提言 ①ニホンジカ対策のための予算付②山岳トイレ整備③山岳トイレの利用者負担山梨県は恵まれた山岳環境を後世に伝えることを使命として活動していきたい。

## 新潟県 伊藤直委員長

研修会は 2 回実施。一回目は「頸城野の哺乳類」と題して妙高を中心とする自然体系を。特に火打山のライチョウの棲息状況について、二回目は「酒つくりは里づくり」と題して、新潟県は酒の生産が盛んなのは豊かな里山背景があるからとし、奥山に続く里山の自然を守ることにについて、と講演会を開催した。新潟県環境企画課との懇談会では登山道や山小屋の保全に向け具申をした。



## 長野県 小林委員長



主な活動として「八ヶ岳清掃登山」への協力。腕章身分証明携帯して活動する。県内各種自然保護団体との連携。個人的に「長野県自然保護レンジャー」に登録し活動。長野県は全国から登山者が集まる多数の山がある。山岳会所属の全員が自然保護委員であるという意識を持って活動している。

## 富山県 藤井委員長

楽しい登山・安全登山・自然に親しむ登山の普及のために一般公開で「県民登山教室」を開催し、今年で 40 回目を迎えた。須全保護指導員を対象に自然環境や自然保護の研修会として「自然保護セミナー」を開催し毎回 20 名程が参加。これらをメインに活動している。富山県ファミリーパークでもライチョウの人工飼育の雄 3 羽は元気育っている。山岳トイレのバイオ化も進んでおり、十数基が稼働している。



## 福井県 山岸氏



自然保護活動としては①「里山と秋の山野草観察会」50 名参加で成功、②夜叉が池周辺の現状視察で池の環境保全（岐阜県と連携）13 年を迎え、環境安定。災害ボランティアとして、東日本大震災復興支援絆の旅として 2011 年にボランティアとして参加した被災地を再訪した。県総合防災訓練にも参加。

## 静岡県 豊田委員長

静岡県高山植物保護員制度や南アルプス高山植物ボランティアネットワークへも参加。富士山はユネスコ世界遺産登録から 3 年。増加する登山者と予想される噴火に対する施策の推進が必要。南アルプスではニホンジカの食害対策として防鹿柵を設置。近年鹿イノシシの食害が一層進んでいる。



愛知県 鈴木委員長



県自然保護委員会としての大きな行事は、①1月実施した三重県鈴鹿山系の「お金明神」に14名参加、②4月実施の長野県木曾福島城山（70種もの花観察） この二つの自然観察会である。

三重県 橋本委員長

自然保護指導員募集するも応募者は少ないのが現状。

鈴鹿山系での清掃活動が定着し、地元の観光協会と連携しながら3年間継続。鈴鹿山系（水晶谷など）には作業小屋などの埋設されたゴミ（ビン・缶）が毎年のように露出し、その回収にあたっている。鈴鹿山系連絡協議会ということで滋賀・愛知・岐阜が連携して啓発活動や情報交換をおこなっている。新人の自然保護委員を対象に研究会を開催。10月～11月を自然保護月間とし各山岳会で実施と報告をおこなっております。



岐阜県 門屋委員長



伊吹山登山調査、整備交渉経過の報告岐阜県側からのルートが自動車専用道路を通るため、ルート上に「登山者禁止看板」が設置された。委員会では自然保護活動としてこのコース確認と看板、側道の幅を確認。この場所1キロに歩道ができないか今後行政やドライブウェイ会社と交渉したい。日山協の皆さんの支援を戴きたい。

滋賀県

（欠席につき、提出資料にて紹介）

京都府 山本委員長

前置きとして、この総会では各都道府県の活動を知ることが楽しみにしていますので十分時間をとっていただくことを切望しております。

6月第一日曜日に京都府下一斉清掃登山大会を行っております。京都府と各地方自治体は連携して観光コースだけではなく登山コースを含んで行っております。これを啓蒙活動の機会ともしています。36団体プラス一般で600人の参加。観察会も行っておりますが、京都でも植物の絶滅危惧種が増えており、レッドデータブックの改訂版も出ており、植物園などと連携して研修会を行っております。



大阪府 松下氏



4月29日のみどりの日に金剛山登山口で、公益財団法人大阪みどりのトラスト協会の「みどりの基金」活動に協力しており、その3割の岳連への還付を財源に、試薬などの機材購入に充て、金剛山系・岩湧山系の4カ所で水質調査を実施しています。このほか六甲山で藤木祭を関係団体と協力しサポートしています。今後は自然観察会の実施、自治体と協力しての自然保護啓蒙活動。腕章をつけてのパトロールが啓蒙活動に繋がる。

兵庫県 吉野氏

「自然観察山散歩」を年間7回実施していますが今年は悪天候で6回となりました。この活動は魅力あるコースと講師の選定に留意し、歩きながら学習できる観察会を運営することか特徴です。例えば読図を学ぶとか植物観察の仕方、虫こぶや昆虫のことなどのプログラムを組み入れて、昼食休憩を利用するなどして居ります。人気が上がって、参加者が増えてきております。



鳥取県 松塚氏



一斉清掃・一木一石運動を実施しているが、4年前の総会報告に同じです。大山夏山登山道（ユートピアコース）修復は、昨年に飯豊連峰の登山道整備に担当した肩を講師に招き講習会を開き今年5月から実践を行いました。大雨での損壊もなく成果が出ております。昨年からの大山キャリアアップ（木道修復の角材をボランティアの協力で運び上げる）。今まで、キャリアダウンということで山頂の尿尿の搬出を4年間行ってきましたが、更に継続を希望する声があり、キャリアアップという形で再出発しました。自然保護委員会の構成が実質3名で、一般登山者（企業や組合なども）に声かけして協力依頼する運動のやり方が鳥取県の特徴です。

広島県 小田委員長



広島岳連では活動組織の名称を「自然保護」とは言わず「自然環境保護」として取り組んでいる。他県にはない独自の自然保護活動として、雲月山の「山焼き」がある。4月の第一土曜日に行っています。山焼きによって、陽光獲得で地表植物の新芽に発生を促し、6月にはササユリなど開花が見られます。その他6月第一土日に「山の日」県民のつどいが開かれサポートしています。8月にも「山の日」ということでやりましたが、熱中症との戦いで実施の再検討が必要です。「水質検査」、「山のお弁当」、「広島県自然保護研修会」、自然

保護活動の啓発活動等を実施。山のお弁当の利益は水質検査などの資金源にしています。

#### 香川県

(欠席につき、提出資料にて紹介)

#### 高知県

麻田副会長

社会啓発活動と自然保護活動PRとして、高知市の里山での清掃活動を行い多くの一般市民の参加を得ました。シカの食害を防ぐために山岳団体と県と連携し総勢 200人ほどで、駆除の取り組み尾も行ってあります。費用対効果からでは駆除頭数は少ないのですが、みんなで自然環境を守っていくとの取り組みとしては良と考えております。同じ観点で山岳連盟も協力を致しております。



#### 大分県

(欠席につき、提出資料にて紹介)

#### 長崎県

(欠席につき、提出資料にて紹介)

#### 福島県

大内委員長



岳連全体での行事を設けては居りませんが、加盟するそれぞれの団体で独自に登山道整備や植生保護などの活動をしております。原発に事故以降、放射線量に関してそれぞれの山でデータをとっている。「安達太良山岳会」としての活動について5月に山開きがあつて山のパトロールを行っています。4月から11月に登山道の整備を実施。山小屋跡のゴミ処理、植生の回復小学校登山の引率等の活動を行っている。トレランについて、安全対策が十分でないとの点から岳連として支援をしないと決定。団体としてトレランとどのように向き合っていくかは今後の課題である。

#### 青森県

服部会長

青森県は登山道の整備が十分でない。特に南八甲田は遅れており、藪山化してきている。関係当局と協議しまして、猿倉温泉から櫛ヶ峰までは整備が進みました。また、今年から、連盟も協力して追加整備を行うこととなりました。北八甲田方面でも、酸ヶ湯～大岳以外は藪道になっているところがあるので今年調査しており、ここ2～3年内の地図上の登山道は復活させたいと思っている。



#### 質疑応答

群馬県自然保護委員会として

登山を抜きにした自然保護活動は行わない。蝶・花・鳥は対象としない→いかに山登りを楽しむか

#### 都岳連から長野県岳連への質問

ストックの使用について

必要な時と場所を選んで使用してほしい。プロテクターを使用する。

#### 大会テーマの説明 日本山岳協会 自然保護委員長 松隈 豊

テーマは「いわはしやま(会津磐梯山)の自然保護と火山防災に学ぶ」。磐梯山は古く「いわはしやま」と呼ばれていた。天にまで高く懸かった岩の橋のこと。山は天上へ通じる場所と、古代から地元の人々に信じられて、大切にしてきた。粗末にすると天上の怒りが下る場所でもあります。まさに自然保護と防災との両面を考えることが必要です。基調講演に中にもありましたが、これからは火山を意識した自然保護や登山を励行して行きたいものです。

#### 次期開催予定地紹介

常任委員会に一任とした

#### 閉会宣言

日本山岳協会 自然保護副委員長 堀江伸子